

平成 21 年 5 月 25 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2008

課題番号：18592351

研究課題名（和文）二分脊椎症女性の月経と性の健康に関する包括的ケアプログラムの開発

研究課題名（英文） Development of Comprehensive Care Program for Menstrual and Sexual Health of Female Patients with Spinal Bifida

研究代表者

野田 洋子（NODA YOKO）

岐阜大学・医学部・教授

研究者番号：10095953

研究成果の概要：思春期から性成熟期にある二分脊椎女性とその家族への月経と性の健康に関するインタビュー調査およびアンケート調査の実施、医療関係者へアンケート調査から、二分脊椎女性の抱える問題およびケアニーズが明らかにされた。また英国二分脊椎症協会および二分脊椎の学際的クリニック視察を通し、二分脊椎女性のリプロダクティブヘルスケアの必要性と方法についての示唆を得た。さらにシンポジウムを開催し、今後の包括的ケアへの方向性を探るリーフレット試作版を作成中である。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,500,000	0	1,500,000
2007年度	800,000	240,000	1,040,000
2008年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	540,000	3,840,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学

キーワード：二分脊椎女性、思春期、性成熟期、月経と性の健康

## 1. 研究開始当初の背景

二分脊椎症は近年、生命予後が改善し、生活面の向上も図られるようになってきた。また二分脊椎女性も、性交が可能で排卵性周期があれば、妊娠は可能で、生殖機能に問題はないとされており、妊娠・出産を経験している女性もいる。しかし一般的に月経やセクシュアリティについては現在まであまり問題とされてこなかったが、そのことが二分脊椎女性の悩みを深くしている。また幼少期から排泄障害を持ちながら成長する二分脊椎症

児は、自己の性を否定的に捉えやすく、自己肯定感への影響も考えられる。そこでわれわれは思春期から性成熟期にある二分脊椎女性の月経と性の健康についての身体的、心理・社会的側面から包括的ケアプログラムを作成し、実践する必要があると考えた。

## 2. 研究の目的

（1）思春期から性成熟期にある二分脊椎女性および家族の月経と性の健康の実態とケアのニーズを明らかにする。

(2) 二分脊椎女性と関わる医療関係者の月経と性の健康に関するケアの実態を明らかにする。

(3) 二分脊椎女性の月経と性の健康に関する包括的ケアプログラムを開発し、実践・評価する。

### 3. 研究の方法

(1) 文献研究；国内医学中央雑誌および Pub Med によって過去 10 年間の二分脊椎症のリプロダクティブヘルスに関連する文献を検索する。

(2) 面接調査(研究 A)および質問紙調査(研究 B、研究 C)；思春期から性成熟期にある二分脊椎女性の月経と性の健康に関して面接調査および質問紙調査を行う。同様に診療に関わる医療関係者への質問紙調査を実施する。

(3) 海外視察(研究 D)；二分脊椎のリプロダクティブヘルスケアに関して、実際に行っている海外の施設を検索し、許可の得られた 2 施設を視察し、そのケアの実際をみる。日程：平成 19 年 12 月 14 日~12 月 20 日  
視察場所：

① 英国 Chelsea & Westminster Hospital

② 英国二分脊椎症協会

訪問者：野田洋子、小野敏子、足立久子

(4) シンポジウムの開催とリーフレットの作成；包括的ケアプログラム作成の一環として、シンポジウムを開催する。またリーフレットを作成し、健康教育の教材とする。

### 4. 研究成果

#### (1) 文献研究

二分脊椎女性とセクシュアリティ、月経をキーワードとした医学中央雑誌による 1983-2009 年の検索結果は 13 件であったが、内容的に本研究と関連あるものは 5 件であった。国内においては、二分脊椎女性の月経や性に関する研究がほとんどなされていないことが明らかである。

また Pub Med により、spinal bifida, women, menstruation, sexuality をキーワードとした検索結果は、14 件であった。

そのほか、日本二分脊椎症協会をはじめ、海外の Spinal Bifida Association のウェブサイトで見られる、活動報告や研究結果などに有用な情報が大きかった。

#### (2) 研究 A

[研究協力者] 二分脊椎女性とその母親

[研究期間] 平成 18 年 9 月~平成 19 年 3 月

[研究方法] 半構成的インタビュー法を用いて、二分脊椎女性 30 分程度、母親については 60 分程度、それぞれ別に面接調査を行った。

[分析方法] インタビューは同意を得て録音し、逐語録を作成し、質的に意味内容の分析を行った。内容妥当性に関しては、研究者間の一致したカテゴリーを採択した。

[倫理的配慮] 二分脊椎症協会二分脊椎女性および母親に書面にて、研究協力の趣旨などを説明した結果、全ての方から研究の同意が得られた。本研究は岐阜大学医学部医学系研究科倫理審査委員会の承認を得た。

[結果]

#### ① 研究協力者の特性

二分脊椎女性の平均年齢は 16.89±3.76 歳(10~22 歳)であった。二分脊椎女性の特性として、水頭症なしは 2 名、ありは 7 名でそのうちシャント挿入は 6 名であった。全員に排尿障害がみられ、間歇的自己導尿を行っている。排便については 1 名が障害なしとしているが、8 名に排便障害があり、摘便、洗腸、内服で対処している。麻痺のレベルは腰椎~仙椎で、歩行障害に関しては、独歩 7 名、独歩(装具つき) 1 名、車椅子 1 名であった。

#### ② 月経について

初経の受止め；二分脊椎女性が初経になったときの受止めを、肯定、中立、否定の観点から分析した結果、先行研究と比較して異なっていたのは「健常児と一緒にだと思った」という受止めであった。

月経の受止め；月経の受止めも、肯定・中立・否定の観点から分類したが、初経の受止め同様、「健常な人と同じ女として産まれてきた」という受止めが認めは独自のものである。

困ったこと；月経があることで困った内容は、「導尿」「尿漏れ」「下痢」の 3 カテゴリーに分類され、これは排尿障害のある二分脊椎女性特有の問題であった。

#### ③ 性について

性についての思いとして、研究協力の得られた女性に年齢幅があり、具体的な思いとしてあまり聞かれなかった。また将来の結婚や子どもを持つことについての思いについては、「結婚して子どもが欲しい」とするものから「結婚はしたいが子どもまでは考えていない」「今はどちらとも思わない」など、二分脊椎症であることに関連した内容から一般女性の思いと変わらないものなどがあげられた。

[考察] 本研究は予備調査であり、研究協力者数も少なく十分に二分脊椎女性が抱える月経と性の健康の問題を捉えているとはいえない。しかし初経・月経の受止めや月経に関する困難、性に関する思いや将来の結婚に対する思いなどから、二分脊椎症であることが健常女性の月経や性に関する問題に加え、より大きな問題として捉えられていることが認められた。このことは、今後の月経と性の健康に関する包括的ケア教育の必要性を示唆するものである。

### (3) 研究 B

〔研究協力者〕思春期から性成熟期にある二分脊椎女性およびその家族で二分脊椎症協会より紹介を受けた。

〔研究期間〕平成19年7月～9月

〔研究方法〕郵送法による無記名自己記入式質問紙調査で、調査用紙は二分脊椎女性用（小・中学生用、高校生用、大学生・社会人用の3種類）及び家族用の4種類を作成した。調査項目は年代により内容及び表現が若干異なるが、対象の背景、病気に対する理解、月経に関する意識と行動、性に関する意識などから構成されている。

〔分析方法〕SPSSver.15.0を用いて統計的解析及び記述内容の分析を行った。

〔倫理的配慮〕本研究は岐阜大学医学部医学系研究科倫理審査委員会の承認を得た。

〔結果〕

対象となる年齢の女性435名及びその家族にアンケート用紙を郵送した結果、小中学生42名、高校生15名、大学生・社会人56名の計113名（回収率26.0%）とその家族122名（回収率28.0%）の計235名から回答が得られた。

#### ①研究協力者の特性

二分脊椎症の特性である、水頭症は71.5%、排尿方法としては自己導尿93.3%、尿失禁85.5%、排便方法としては、自排便31.8%、摘便37.5%、洗腸25.0%、便失禁40.5%。歩行障害は87.8%に見られ、装具なし独歩22.7%、装具あり独歩25.8%、装具+杖16.5%、車椅子使用は35.1%であった。

#### ②病気についての思い

「病気になって嫌だと思う」、「病気により引き起こされる導尿や歩行障害は大変で不便さを感じる」という回答は小中学生に多く、大学生・社会人では「病気だけでしょうがない、気にしない」、「挫折はあったけど前向きに考えられるようになった」が多い傾向がみられた。

#### ③月経について

月経状況；月経ありは89名（83.2%）であった。初経年齢は11.72±1.84歳で、早発月経（8歳2名、9歳2名）、遅発月経（15歳9名、16歳1名）であった。正常月経周期は56.3%と少なく、40%が不規則、3ヶ月以上の無月経が1名であった。月経持続日数は90%が3～7日の正常範囲内であるが、過長月経が10.4%であった。また経血量としては尿失禁が85%に見られることもあり不明が13名であったが、多いと感じるものが27.7%であった。

#### 初経時の気持ちと母親の思い

初経時の認識は、「ああこれが生理か」といった中立的な反応が最も多く半数以上を占め、「大人になった」「良かった」という肯定的な反応は13%と少なく、「恥ずかしい」とは

思わないが「嫌だ」とするものが17.6%をしめる。

母親の認識としては肯定的にとらえるもの、否定的にとらえているものも多く、中立もあるがアンビバレントな感情を持っている。障害を持っている場合、通常に比較し母親の思いは複雑であり、安堵すると同時に不安を感じる人が多い。母親の初経時の反応が子どもに与える影響は大きく、母親への指導の必要性が示唆される

#### 月経周辺期の変化・症状

月経周辺期の変化・症状については20項目について4段階（なし=0から激しい=3）で評価を求めた。項目としては一般の女性と同様に「下腹痛・腰痛」の月経痛が最も多く、月経痛有りとした母親からの回答は76.3%であった。「イライラ」、「怒りっぽい」などの精神的症状や、「行動の変化」もみられる。また「下痢」「便秘」などの症状は、月経周期に伴う変化に加え、二分脊椎の特性である排泄障害への影響とも考えられる。

#### 月経血の対処法

月経に対する困難については2割があるとしているが、その内容として一番にあげられるのが、月経血の対処であった。自己導尿、尿失禁などの排尿障害や、排便障害があることにより、月経血の対処が困難となる

月経血の対処としては、二分脊椎に伴う失禁から、「ナプキンのみ」は20%と少なく、「紙おむつのみ」で代用するものが最も多いほか「紙ナプキンとの併用」となっている。

月経血対処の工夫は各人がいろいろに工夫しているが、十分快適な月経期の生活とはいえない状況が伺える。

#### 月経痛の対処法

月経痛の対処法としては、約半数が「鎮痛剤を服用」している。「横になる」が30%であり、積極的に「マッサージや保温」といったセルフケアは少ない。また「月経体操」は身体障害から不可能に近いものでゼロであった。月経痛やその他、月経周期に伴う不快症状を軽減するための方法への支援が求められる。

#### 月経に対する思い

「女性であることを実感」、「普通の女性だと思える」、「自分にも赤ちゃんが産める」という肯定的思い、「月経随伴症状に対する辛さ」の他、「面倒」、「憂鬱」、「不安」や「早く終わって欲しい」、「仕方ない」と言った否定的思い、「何とも思わない」、「気にしたことがない」という中立的思いがあげられた。母親の思いはさらに複雑であり、「大人の仲間入りだね・・・」という二次性徴の認識とそれに対する「おめでとう」「ほっとした」などの肯定的思いの他、「生理時の導尿が心配」「処置が大変」など「心配、不安、かわいそう」という思いやさらに「初経が早い」「初経が遅

い」などの時期的な不安などの否定的思いがあげられた。また初経時には「月経血の対処の仕方」などの説明や、学校での説明だけで特に改めて必要なしとする回答も見られた。

#### 女性であることの受けとめ

小学生は「女子に生まれて良かった」と思う者が 68.2%、「男子に生まれれば良かった」とは思わない者が 63.6%であり、6 割以上が女性であることを受止めていた。中学生では「女子に生まれて良かった」とは思う者は 47.1%であるが、「男子に生まれれば良かった」と思わない者は 25%、どちらとも言えない者が 62.5%となり、女性であることの受けとめを否定する者が増えてくる。しかし高校・大学・社会人となると女性であることを受容する者が増加している。月経を肯定的とらえることにより、女性としての自己を受容ができるということが一般的に言われているが、二分脊椎女性にとって女性であることの受けとめには、一般的女性と比較して大きな差は見られなかった。

#### ④性について

「性についての不安や悩み及び知りたいこと」がある小中学生は 8 名、「性について気がかり」のある高校生は 2 名、大学生・社会人は 6 名であった。また「性について相談出来る人がある」高校生は 5 名、大学生・社会人は 23 名であった。気がかりな内容としては「結婚できたとして、赤ちゃんができた時の子どもへの病気の影響」「セックス」「子どもができるか」「麻痺のせいで不感症ではないか」「出産への不安」「尿漏れにより異性とのつきあいができないのでは？」などがあげられた。一方「子どもの性について気がかり」のある親は、小中学生で 25 名、高校生で 7 名。大学生・社会人で 14 名であり、「子どもの性について相談できる人がある」親は、小中学生 26 名、高校生 3 名、大学生・社会人 9 名であり、気がかりがあると答えた親に、相談できる人が身近にいないものが多かった。

#### [考察]

二分脊椎女性にとって思春期は生まれたときには余りにしななかった障害の問題を意識しだす時期であり、ことに排泄の問題は大きなストレス要因ともなる。思春期になり他者とは違う自分の病気を自覚し病気を受止めきれずに悩み、そのことが「病気になって嫌だと思う」とい結果に現れているものと考え。自己導尿の手技や尿失禁時の対処など、本人が手技を獲得し自分なりの対処ができないことも、病気を受け入れられない思いに繋がっているものと考え。また、自己導尿をしていることが、月経やセクシュアリティを考えると、困難さを引き起こすこととなる。月経は女性にとって健康の証とされ、月経をポジティブに受け止めることが、その後の女性性の発達に大きな影響を及ぼすことが

知られている。しかし自己導尿や車椅子生活をしている女性にとっては、月経は面倒であり、対処は困難を極める。現実的で実施可能な方法を本人が見いだすことができるよう支援するとともに、性の問題や将来の問題や進路などについての悩みを相談できる医療機関、相手をみつけていけるよう支援することが必要である。

今回の調査で、二分脊椎女性のかかえる月経の実態と困難が明らかとなったが、これは先行研究において、道木らの発表した結果および、本研究者らの面接調査から明らかとなったことを裏付けるものとなった。

#### (4) 研究 C

[研究協力者] 日本二分脊椎研究会会員

[研究期間] 平成 20 年 1 月

[研究方法] 郵送法による無記名自己記入式質問紙調査で、調査項目は月経や性に関する相談の有無と内容、教育支援の有無と内容、健康教育の方法などであった。

[分析方法] SPSSver.15.0 を用いて統計的解析及び記述内容の解析を行った。

[倫理的配慮] 本研究は岐阜大学医学部医学系研究科倫理審査委員会の承認を得た。会員への配布は二分脊椎研究会の事務局(世話人)の同意を得たもので、アンケートの回収を持って回答者の同意が得られたものとなした。

#### [結果]

①研究協力者の特性;アンケート回収数は 92 名(回収率 35.5%)であり、医師 81 名、看護師 4 名、PT/OT 4 名、その他 2 名、不明 1 名であった。

②月経に関する相談を受けた経験のあるものは 20 名(21.7%)であり、相談内容としては月経不順、早発月経、月経時の自己導尿や排泄管理についてなどであった。

③教育支援については 9 名(9.8%)が経験ありとしているが、そのうち 4 名が看護師であり、パンフレットを用いて自己管理の必要性を説明したり、排泄障害の対応について適宜実施していた。

教育支援の必要性ありとしているものは 47 名(51.1%)であり、その内容としては、健常者と同じように月経があり妊娠が可能なことを話すことが必要、排泄管理と同レベルの月経の衛生管理が必要であるなどがあげられた。回答者の構成として泌尿器科医が 26 名(28.3%)、脳外科医が 22 名(23.9%)と、性に関する専門領域でなかったことが結果に影響していたと考えられる。

#### (5) 海外視察

①英国 Chelsea & Westminster Hospital

Dr. Richard Morgan による二分脊椎症の学際的クリニックの見学及び同教授による講義を受け、多職種医療専門職が包括的、継続的に治療ケアに携わることの重要性を認識した。

#### ②英国二分脊椎・水頭症協会 (ASBAH)

Andrew Russell (Chief Executive)からASBAHの活動について報告を受けた他、RosemaryBatchelor (Senior Medical Adviser)からは青年期女性の性の健康について、Lisa Raman (Specialist Adviser)から教育的サポートについて、Carol Rubinstein (Education Adviser)と Barbara Robinson (Adult Group Coordinator)からは、大人向けのグループ活動の実際についての説明があった。また協会が行っている若者向けの活動の紹介、リーフレット、研究など、今後月経や性に関するケアを考えていく上での示唆が得られた。ことに若者を対象とした“Below the belt”は、本研究課題を遂行していく上で参考となるものである。

#### (6) シンポジウムの開催

[日時] 平成20年11月29日(土)午後1時から4時

[場所] 東京都五反田ゆうぼうと

[テーマ] 二分脊椎女性のリプロダクティブヘルス/ライツ～思春期からの月経と性の健康～

[座長] 野田洋子、小野敏子

[通訳] 渡邊容子；群馬県立県民健康科学大学

[シンポジストと内容]

堀口雅子（性と健康を考える女性専門家の会・会長）；産婦人科医の立場から思春期からの月経と性について説明した。

道木恭子（国立身体障害者リハビリテーションセンター病院・看護師）；二分脊椎女性の月経・妊娠・出産や性の問題について、190名への調査結果を通し、今後の課題として、個別的な対応と知識を広めること・情報を共有することと性に対する正しい理解の必要性を述べた。

杉井智子（すぺーす結、二分脊椎症協会会員）；障がいを持つ子どもの家族の子育て支援グループ「すぺーす結」を主宰。二分脊椎の思春期女性の母親として、その成長を見守って来た立場から、二分脊椎の子には月経や妊娠・出産は出来ないという思い込みなど体験を通し、これからのケアや支援についての正しい知識・情報の提供の必要性を述べた。

Ms. Rosemary Bachelor（英国二分脊椎・水頭症協会 senior medical advisor）；英国二分脊椎・水頭症協会の活動の実際と二分脊椎・水頭症の思春期女性の特徴について説明。ブックレット“below the belt”は十代の二分脊椎症の若ものに向けて、彼らの使ってい

るわかりやすい言葉で書かれたもので、若い人の自立の達成、生活の様々な場面で責任を取ること、つまり衛生管理から、排便排尿の自制や性についてまた休日に出かけたりなど、人生の様々な場面での対処について書かれており、英国だけではなく広く世界で読まれていると紹介。

指定討論者の林恵子（神奈川県リハビリテーションセンター臨床心理士）は、日頃の臨床場面の中で、月経や性の相談がなかなか難しい現状と、日本においても16歳という年齢が子ども病院から成人の医療施設へと転換していく中での困難とシステムづくりの重要性を指摘。ディスカッションでは尿路形成術をした場合の妊娠・出産についての質問や、学習障害や車椅子での月経処理の難しさと自己導尿、清潔の問題など、また相談機関や子ども向けの冊子の必要性等々があげられた。

シンポジウム参加者は40名、子ども8名であり、スタッフ・ボランティア13名で運営された。終了後のアンケート結果(32名)では、内容、資料について「大変良い～良い」という評価を得た。又全員の回答者が、今後このような機会があれば参加を希望していた。

今回のシンポジウムは、総論的な問題提起の内容であったが、さらに具体的な事例の紹介や妊娠・出産・育児を経験された体験談などを含めた広報活動の展開、ブックレットの作成、ピア活動などを取り入れたケアプログラムの作成などを継続していくことの必要性が再認識された。

シンポジウム企画委員：(岐阜大学)野田洋子、足立久子、松野智香子、鈴木幸子；(川崎市立看護短期大学)小野敏子、笠井由美子；(日本二分脊椎症協会)木原久、(群馬県立県民健康科学大学)渡邊容子

#### (7) リーフレット試作版の作成に向けて

現在、「二分脊椎女性のための月経と性の健康ガイドブック」を作成中である。内容は大人の女性になるということ、月経のしくみと対処の方法、および英国二分脊椎協会発行の“below the belt”の思春期女性のセクシュアリティについての部分の翻訳版を加えたものとする。

#### (8) 今後の課題

二分脊椎女性の月経と性の健康に関する包括的ケアプログラムの開発・実践・評価を目的とした研究であったが、最終年度において、リーフレット試作版作成にとどまった。今後の課題として、以下の4点が挙げられる。

- ①リーフレットを用いたアクションリサーチの実施・評価
- ②二分脊椎女性のピアグループの養成
- ③リプロダクティブヘルス、ことに妊娠・出

産の支援に関する包括的ケアプログラムの開発・実践・評価

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計 6 件)

① 小野敏子、笠井由美子：思春期前後から年期における二分脊椎女性の病気についての思い、第 56 回日本小児保健学会、2009 年 10 月(発表確定)、大阪。

② Yoko NODA, Hisako ADACHI, Toshiko ONO, Yumiko KASAI, Chikako MATSUNO, Sachiko SUZUKI: Development of Comprehensive Care Program for Menstrual and Sexual Health of Female patients with Spinal Bifida, The 1<sup>st</sup> International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing, 2009(acceptance), Kobe.

③ 松野智香子、鈴木幸子、小野敏子、笠井由美子、野田洋子：二分脊椎女性の月経と性の健康に関する研究第 2 報二分脊椎女性の性の健康の実態、第 28 回日本思春期学会、2009 年 8 月(発表確定)、浜松。

④ 野田洋子、小野敏子、笠井由美子、松野智香子、鈴木幸子、渡部加恵：二分脊椎女性の月経と性の健康に関する研究第 1 報二分脊椎女性の月経の実態、第 27 回日本思春期学会、2008 年 8 月 30 日、千葉。

⑤ 小野敏子、野田洋子、笠井由美子、足立久子、林恵子：二分脊椎女性の月経と性の健康に関する研究 医療関係者へのアンケート調査から、第 25 回日本二分脊椎研究会、2008 年 6 月 21 日、名古屋。

⑥ 野田洋子、小野敏子、足立久子：二分脊椎女性の月経と性の健康に関する研究(予備調査)、第 9 回日本ヒューマンケア心理学会、2007 年 9 月 8 日、名古屋。

[その他] (計 3 件)

① 木原久：シンポジウム「二分脊椎女性のリプロダクティブヘルス/ライツ」報告、SSKO「道」、99:2013、2009 年。

② 堀口雅子：二分脊椎女性の月経と性の健康、性と健康を考える女性専門家の会ニュースレター Women's Health and Sexuality、43:6-7、2009 年。

③ 野田洋子、小野敏子：トピックス シンポジウム開催レポート 二分脊椎女性のリプロダクティブヘルス/ライツ 思春期からの月経と性の健康、63:3、246-247、2009 年。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

野田 洋子(NODA YOKO)

岐阜大学・医学部・教授

研究者番号：10095953

### (2) 研究分担者

足立 久子 (ADACHI HISAKO)

岐阜大学・医学部・教授

研究者番号：00231936

池谷 尚剛 (IKETANI NAOTAKE)

岐阜大学・教育学部・教授

研究者番号：70193191

松野 智香子 (MATSUNO CHIKAKO)

岐阜大学・医学部・助教 (平成 20 年 4 月追加)

研究者番号：20509442

鈴木 幸子 (SUZUKI SACHIKO)

岐阜大学・医学部・助教 (平成 20 年 4 月追加)

研究者番号：60509438

渡部 加恵 (WATANABE KAE)

慶応義塾大学・看護医療学部・助教 (平成 20 年 3 月辞退)

研究者番号：10304114

### (3) 連携研究者

小野 敏子 (ONO TOSHIKO)

川崎市立看護短期大学・看護学科・准教授

研究者番号：20279631

笠井 由美子 (KASAI YUMIKO)

川崎市立看護短期大学・看護学科・助教 (平成 20 年 4 月追加)

研究者番号：30450000

### (4) 研究協力者

堀口 雅子 (HORIGUCHI MASAKO)

性と健康を考える女性専門家の会・会長

道木 恭子 (DOUKI KYOKO)

日本障害者リハビリテーションセンター病院・看護師

林 恵子 (HAYASHI KEIKO)

神奈川リハビリテーションセンター・臨床心理士

木原 久 (KIHARA HISASHI)

日本二分脊椎症協会・会長